

渡り初めを楽しむ

筑後川昇開橋リニューアル



2月13日、大川市(若津町)と佐賀市(諸富町)で筑後川昇開橋リニューアルオープニングイベントが開催されました。当日は、佐賀市側展望公園での記念式典の後、新しくなった筑後川昇開橋の渡り初めが行われました。また、午後からは、餅投げやぜんざいの無料配布、先着で地元特産品が当たるおたのみ抽選会が行われ、多くの参加者で賑わいました。筑後川昇開橋は、老朽化にともなう保存修理工事と塗り替え工事を終え、約2年ぶりに佐賀市側との遊歩道が開通しました。

写真上：昇開橋テープカット
写真下：渡り初めで賑わう若津の展望公園

古式豊かな神事に賑わう

風浪宮大祭



2月9日から11日までの3日間、筑後三大まつりの一つ「おふうろうさんまつり」として親しまれている風浪宮大祭が開催されました。大祭期間中は、お潮井詣り、御神幸祭、流鏝馬など古式豊かな神事が繰り広げられ、多くの参拝客で賑わいました。また、2月8日に行われた前夜祭の「裸ん行」では、若津神社から風浪宮までの約3キロの道のりを、締め込み、鉢巻、足袋姿の若者たちを中心に子どもから大人までの参加者が「邪気退散」などと書かれた大うちわや松明を手にし、勇ましく駆け抜けました。

写真上：前夜祭の裸ん行
写真下：稚児参列

ほりの再生に汗を流す

アクアリング委員会



がた(泥)あげ作業に汗を流す参加者

2月13日、下白垣地区のクリークでアクアリング委員会(倉重能人会長)がほり干しを行いました。今年で8回目となる堀干しには、同委員会・地元住民、福岡大学生、TOTO関係者、柳川の「堀なおしネットワーク」メンバーなどの約100人が集まりました。当日は、クリークの底に沈殿しているがたやごみを向かいの田んぼへ移し、また水鳥などの飛来を期待して土手に繋るアシなどの草刈りも行いました。学生たちは前日にも、ふれあいの家で水辺の生態系などを学ぶ研修を行いました。

子どもの安全な環境をつくる

県トラック協会大川分会

2月14日、福岡県トラック協会(的場茂分会長)が子どもの交通安全に役立ててもらうため、横断旗48本を市教育委員会に寄贈、石橋教育長に手渡されました。同分会は、交通事故から子どもを守るために毎年、横断旗を寄贈しています。今年も運転手の目に留まりやすい黄色の布地に黒字で「横断中」と書かれた横断旗は、市内小学校付近の横断歩道で子どもの交通指導に使用されます。的場分会長は、「子どもにとって安全な環境をつくるため、車に関わる事業者としてお手伝いできれば」と語りました。



横断旗を手渡す大川分会のみなさん